



2013年度 若州一滴文庫企画展

パノラミコグワナファート 274×68

# 島田正治展

—メキシコを墨で描く—

## 若州一滴文庫

〒919-2116  
福井県大飯郡おおい町岡田33-2-1  
特定非営利活動法人 一滴の里  
TEL:0770-77-2445  
FAX:0770-77-2366  
HP:<http://www.itteki.jp/>  
【休館日】 火曜日(祝日の場合は開館、翌日休館)



2013年 **5**月**8**日(水)~**8**月**5**日(月)  
若州一滴文庫 本館1F 特別展示会場

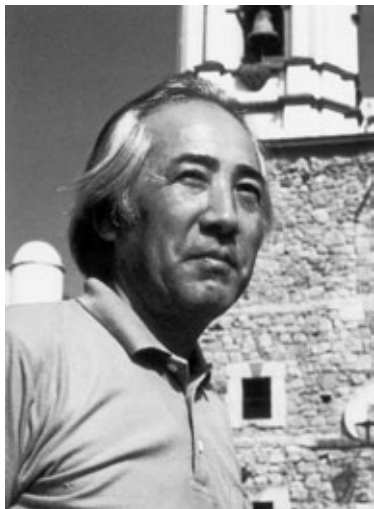
## 島田正治講演会

〈演題〉「墨と太陽」

- 会場 若州一滴文庫 くるま椅子劇場
- 日時 2013年5月19日(日) 午後1時
- 入館料 300円【要予約/先着150名様】

# 島田正治

しまだまさはる



撮影：高田 泉



ランプ

## 《略歴》

- 1931年 京都市に生まれる。
- 1953年 東京学芸大学書道科卒(このころより水墨画を描き始める)。
- 1961年 中央公論社画廊にて第一回個展。
- 1967年 初めてメキシコへ渡り、半年滞在制作。以後毎年メキシコへ。
- 1986年 メキシコ、ハリスコ州・チャバラ湖畔に住む。
- 1992年 京都市国際交流会館にて個展。
- 1968~95年 文藝春秋画廊をはじめ個展多数。
- 1978~80年 中国旅行(3回)。
- 2004年 京都文化博物館個展。

メキシコでは、メキシコ市ガレリア・アルビル、グアナフアト州立美術館、モレリア現代美術館、グアダハラハラ市カバーニヤス、州立カサ・デ・クルツウラ、ミチョワカン大学大学院などにて個展。

## 著書

- 『墨画メキシコ』『中国桂林スケッチ』など(木耳社)、『島田正治墨画集』
- 『島田正治メキシコ千日画行墨画集』(日貿出版社)、『墨で描くメキシコ』
- 『サンアントニオ』(ワークハウス)、
- 『MASAHARU SHIMADA』(メキシコ)

島田正治『墨で描くマヤ』より

メキシコの魅力とは一体何か。ひと口にいうと「野趣」これに尽きる。自然のままの、いななじみたおむきである。風景も、また人間も、すっぼりその中に入る。

現在の私にとってメキシコは第二の祖国、サンアントニオ村は第二の故郷といつてよいだろう。それほどに私とメキシコ、私と村との結びつきは深く、厚いものとなっているから、よほどのことがない限り、ここを離れることはない。生涯かけて描いても描いてもなお不足ばかりが残る。

ここでもはじめは誰ひとり知るよしもなかった。最初に知ったのは、郵便局のホセフィナことチエパさんだった。これは三日目のことで、手紙を郵便局に出しに行つてのことである。

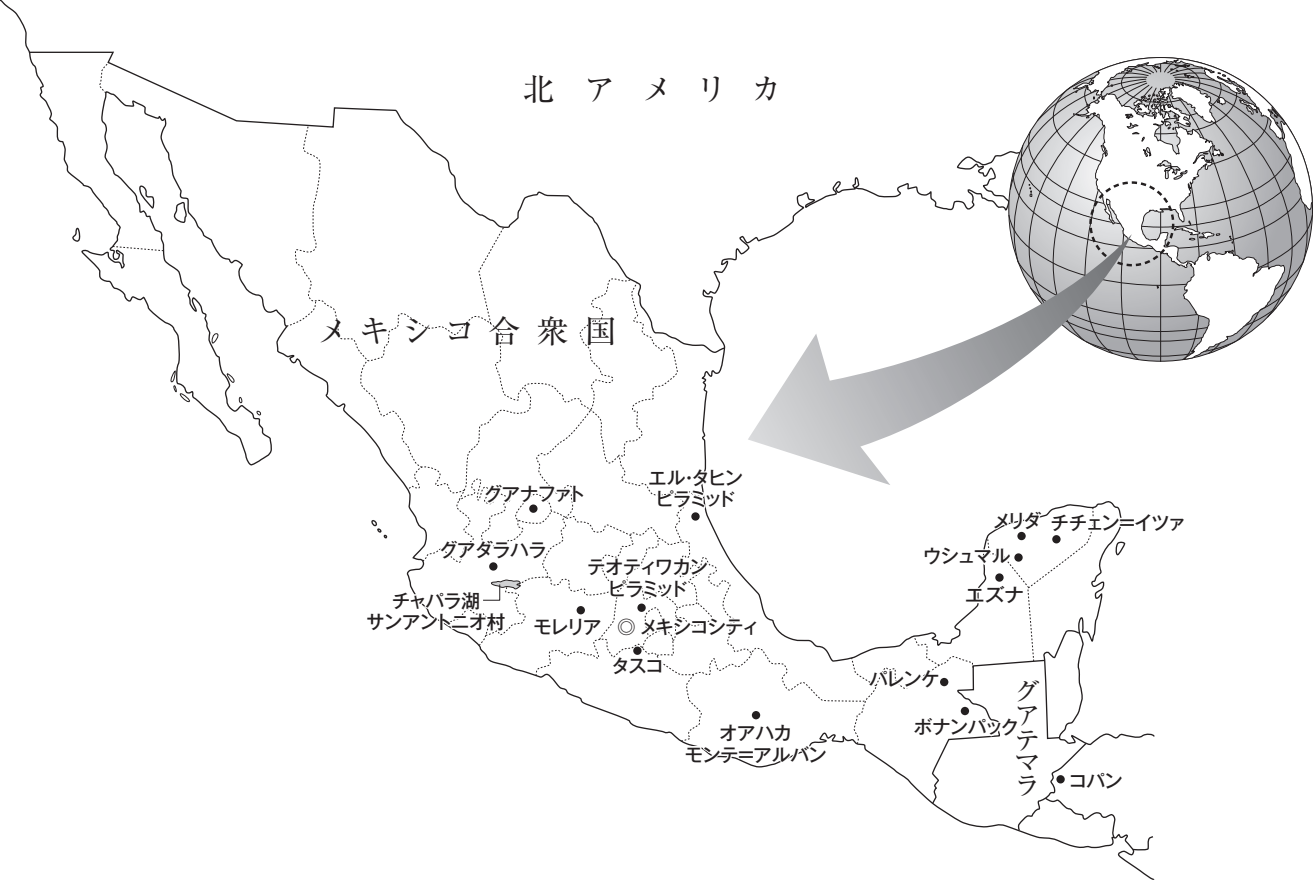
一九八六年の夏からは、半ば定住と決めてハリスコ州チャバラ湖畔、サンアントニオ村に住みはじめた。もう十二年になる。

ここでもはじめは誰ひとり知るよしもなかった。最初に知ったのは、郵便局のホセフィナことチエパさんだった。これは三日目のことで、手紙を郵便局に出しに行つてのことである。

最初にメキシコへ行ったのが一九六七年だったから、メキシコとのかかわりあいも三十年を超えたことになる。バンクーバー経由の飛行機で十時間遅れで早朝のメキシコシティに着いた。もと湖だったところにできた大都会だが、この大きさには度肝を抜かれた。「こんなところによくぞこんな都市が」と思った。

空港に迎えにきてくださった洋画家の故三吉亮久さん

だけが唯一の知人で、あとは誰ひとりとして知り合いもない。初めての外国の地を踏む私には不安、心配の固まりしかなかった。そのトキの様子を「けつこう落ちついていて、堂々としていたよ」と、三吉先生はあとから私に話した。先生六十五歳、私は三十五歳だった。



北アメリカ

メキシコ合衆国

- グアナフアト
- エル・タヒンピラミッド
- グアダハラ
- デオティワカンピラミッド
- メキシコシティ
- モレリア
- タスコ
- オアハカ
- モンテアルバン
- バルエンケ
- ボナンバック
- グアテマラ
- コパン
- メリダ
- チチエン
- イツァ
- ウシュマル
- エズナ
- サンアントニオ村
- チャバラ湖